



不動産学部・保証人各位

後学期までの学修状況報告に併せて、不動産学部から今後の学修を進める上で重要な情報をお伝えします。なお、このお知らせは保証人様にお送りしています。在学生に対してのお知らせは、担任教員、Webポータルシステム、不動産学部HP等を通じて連絡致しておりますが、保証人様からも一言お伝え頂けると幸いです。

オリエンテーション

新2年生：3月26日（金）

新3年生：3月30日（火）

新4年生：3月29日（月）

履修登録・履修相談期間

3月30日（火）～4月2日（金）

不動産学部長からのご挨拶



不動産学部長 中城康彦

世界中が持続可能な開発目標-SDGs-に取り組む中、突然のコロナ禍で、日常生活や健康な身体を持続性は必ずしも保証されないことを実感し、改めて持続可能な社会の大切さを認識しました。17の開発目標の中に「質の高い教育をみんなに」があります。今まで以上に予測困難な時代を生きる力が求められることを踏まえ、建学の精神が示す、社会性、創造性、合理性を身につけ、不確実な国際未来社会で活躍する学生の育成に努めます。

コロナ禍の収束が不透明な中、新年度が始まります。対面授業の予定ですが流動的な部分もあります。随

時提供しますので、確認をお願いします。

社会に出る前の教育機関の大学では、資格取得やインターンシップ、就職活動なども重要です。感染防止と健康保持を優先して遠隔授業を主とした2020年度は、学生間の切磋琢磨や社会との接点など刺激を受ける機会が制約されました。3名の不動産鑑定士試験（論文式）の合格者を出すなど、そのような環境でも努力する動機をもち、自律的に取り組む学生は成果を上げました。各学生の昨年の経験を踏まえ、2021年度の目標と工程表の明確化をお願いします。

保証人の皆様とのコミュニケーション

不動産学部では、保証人の皆様とのコミュニケーションの機会を大事にしています。

●保証人向けオリエンテーション

3月26日（金）に、在校生保証人のためのオリエンテーションを予定しています。詳細は不動産学部HPからお知らせします。

●学期末などのお手紙

学期末など節目の際に、学部長からお手紙をお送りいたします。よくお読みいただき、学業やキャンパス生活の状況をご理解ください。

●教育後援会主催の教育懇談会

浦安キャンパス、札幌から那覇の各地で教育懇談会を開催し個別面談を実施しています。

就職関係のお知らせ

就職支援委員会では、例年インターンシップ派遣（春季と夏季の2回：主に1、2年生対象）、就職合同ゼミの開催（春、夏、冬に各1回）、合同企業説明会（不動産学部主催）、不動産学部学生向け就職ガイドブックの配布（11月に配布：3年生対象）を実施しています。さらに、(株)LIXILリアルティとの連携により最新の業界情報を得られるよう努めています(写真は同社幹部による本学での講演風景)。また、キャリアサポートセンターと連携し、専門的知見を持つ「就活コーチ」による個別指導も実施され好評を得ています。学部同窓会(緑風会)も就職支援を積極的にバックアップしています。なお、宅建試験に合格している学生の内定率はほぼ100%で、3年生までの間に宅建を取得することは内定獲得に大変有利に働きます。就職支援担当教員も、一人でも多くの内定獲得に貢献できるよう、最大限の対応を行っています。引き続きご協力の程宜しくお願いいたします。



宅地建物取引士試験に合格するために

■宅建試験の難易度が上がっています

保証人の皆様も既にご存知のことと思いますが、不動産学部では、遅くとも2年生までに宅建士試験に合格することを目標としています。①宅建士試験の勉強は不動産学の専門的な内容を学ぶ上での基礎になる、②合格者は就活で有利になる、というのがその理由です。

しかし、宅建試験の難易度は上がっています。平成28年以降、合格点は35点を下回ったことがありません(50点満点)。令和2年度10月の合格点は、なんと38点でした。ミスが許されない、難しい試験になったと言えます。でもだからこそ、価値があると言えます。難易度の高い試験に合格ですからこそ、企業側からも評価され、学生も自信を持つことができるのです。

■万全な支援体制を用意しています

宅建未合格の2年生には「不動産取引演習C」という講義が用意されています(3年生への進級要件にもなってい

ます)。講義はかなり早いペースで進みますが、予習して講義に臨み、指定された問題集を解き復習することで合格に必要な力を確実につけることができます。

3,4年生には、学部講義はありませんが、オープカレッジや、特別講義の動画配信など、学生が自分の弱点を補強する手段をたくさん用意しています。しっかり活用すれば必ずや在学中に合格できるはずです。

■合格を勝ち取るために

入学段階ではほとんどの学生が「宅建試験に合格したい」と言います。しかし残念ながら1年間の勉強で、その難しさを知り、あきらめてしまう学生も少なくありません。

コロナ禍でも合格する学生は合格しています。テキストをしっかりと読んで理解する(丸暗記では応用問題に対応できません)。問題演習を繰り返す。模擬試験を受けて復習する。基本を守ることで必ず合格できます。

一人でも多くの学生を合格に導くべく、我々教員一同も全力を尽くします。保証人様からも、初志貫徹の精神で勉学に取り組むべく、学生を励まして頂ければ幸いです。

不動産鑑定士の資格取得と支援体制

■不動産鑑定士試験に4年生2名が合格!

不動産学部4年生の戴小龍さん(留学生)と名古屋 瑠花さんが、不動産鑑定士試験に見事合格しました。不動産鑑定士試験は、文系三大国家試験(弁護士・会計士・鑑定士)の一つです。



不動産学部では、2019年の5月28日(火)より、「反転学習×アクティブ・ラーニング」で不動産鑑定士勉強会を立ち上げ、合格を目指して勉学に励んでいます。昨年は現4年生の薮島三弥さんが合格し、これまでに、メ

ンバーの3名が合格を果たしました。引き続き、不動産鑑定士試験の合格者の輩出に努めて参ります。

■実務修習実地演習大学に認定された唯一の大学

不動産鑑定士になるには、不動産鑑定士論文試験合格後に、実務修習を行い、修了考査に合格する必要があります。不動産研究センター(新宿サテライトキャンパス)は大学に設置されている日本唯一の実務修習機関です。その意味するところは、本学は卒業までに鑑定士資格を取得できる唯一の大学であることです。現在、薮島三弥さんが実務修習中で、卒業を待たずに鑑定士資格を取得予定です。



卒業論文発表会を実施

「卒業論文」は、4年生が不動産学部の学びを1年かけて論文または企画書にまとめるものです。1月19日のオンライン形式の発表会では、3本の充実した報告と活発な意見交換が行われました。



■2020年度提出された卒業論文

尹 笙安:「浸水危険性が地価に及ぼす影響に関する研究」(指導教員: 宅間文夫)

品田 良英:「長期修繕計画を用いた高経年マンションの耐震改修工事実施に向けた研究」(指導教員: 藤木亮介)

戴 小龍:「固定資産税の不動産市場への影響」(指導教員: 山本卓)

退職教員よりご挨拶

周藤利一教授

明海大学と山形県上山市が2018年に締結した連携協定に基づき、不動産学部では同市の空き地・空き家対策やまちづくりへの取組みを「かみのやまプロジェクト」として展開しています。その中には、演習、ゼミ、インターンシップのように学生が参加するプログラムもあります。写真は、空き地活用策として昨年9月に3年ゼミの学生たちが参加して芝生張りをし、造成した広場で、私の背後に武家屋敷、蔵王山が見えます。

私は3月に明海大学を定年退職しますが、NPO法人かみのやまランドバンクの一員として引き続き協力するつもりです。不動産学部の教員・学生の皆さんとも一緒に活動できることを楽しみにしています。

